

下岬区当日 QA

Q：御前崎市としてウミガメ保護活動を行っているが、ウミガメへの規制は現在天然記念物と県立自然公園のきまりしかない。砂浜の減少対策や産卵場内での各種規制ができる「ウミガメ保護条例」を制定してほしい。

A：ウミガメ保護にはまず海岸へ砂を残すことが大事。規制をかける話で、罰則をかけることは警察へも関係してくる。自然公園として規制がかかっている中であり、提案として受け止める。

Q：御前崎小が毎年子ガメの放流、地域全体、各種団体等で海岸清掃活動、ウミガメ供養祭など「ウミガメの日」を制定したらどうか。

A：どの日を選ぶかという議論もあると思う。提案として受け止める。

Q：ふ化場の東側に監視員の打ち合わせができる建物をつくってほしい。

A：持ち帰って検討する。

Q：産卵見学会、子ガメ放流の受け入れ体制を見直したらどうか。社会教育課と監視員会でやっているが、商工観光課や観光協会、恩恵を受ける宿泊施設などにも協力してもらって大勢のお客さんを集めても対応できる体制を整備したら誘客につながる。

A：ウミガメは御前崎の宝。協議会のようなものをつくって実際携わっている関係者で話し合いたい。

Q：こうしたウミガメ保護や環境保全 PR にはお金もかかる。そこで駐車場の出入り口を機械化し、1 回 500 円程度徴収したらどうか。トイレの入り口に募金箱を設置して 100 円程度の協力金を集めてはどうか。

A：駐車場を有料化すると路上駐車が増える可能性もある。トイレもいたずらされて痛められている現状を見ると果たして募金箱を設置できるのかなども勘案するとそれがいいのか疑問である。

Q：御前崎公民館は土日祭日及び夜間の利用が困難。旧御前崎町の時は土日営業、月、火が休日、夜間は警備員により使用可能であった。市民本意の体制に戻してほしい。

A：公民館運営審議会で決めている。警備員を配置することは考えていない。

Q：公民館運営審議会の中では休みは決めていないはずだ。

(A：各地区の公民館運営審議会での審議を経て、平成 20 年度から全館土・日を休館日とした)

Q：電話対応や窓口対応に不満を持った。「井の中の蛙」では困る。

A：電話対応や窓口対応は接客の基本。しっかり指導する。不手際があったら遠慮なく教えてほしい。

教育会館は支所機能を併せ持っているが 2 階にある教育委員会を 1 階へ下ろす。市民への対応のためにそうする。

Q：高度成長期の「昭和の合併」と高齢化や成熟した中での「平成の合併」とは違う。NPM を取り入れると言うが、タウンミーティングも 1 時間そこそこではやる意味はない。忙しいのはみんな忙しい。机の上だけでやってもだめだ。行政も職員が出てきてしっかり話し合ってやるべきだ。

- A：5人でも10人でも時間が合えば来て話をしたい。みなさんの意見を聞くことは大切だ。ぜひ呼んでほしい。
- Q：静岡空港建物内に周辺団体の観光や産業をPRするコーナーがあるが、御前崎市はなぜ入っていないのか。観光は御前崎の顔。ぜひ空港口ビエへ御前崎の観光誘客ポスターを出してほしい。
- A：観光ブースへは立地する牧之原、島田の両市と吉田町のみ入っている。菊川や掛川、御前崎は入っていない。現在のところ「静岡県観光案内所」と「商工会ブース」へ観光パンフレット・イベント情報・企業誘致情報などは陳列してある。やはり観光地御前崎としてPRに臨みたい。
- Q：4年後に迎える市制10周年の記念事業として「NHKのど自慢」の開催を提案したい。空港開港で全国に御前崎市を売り込むにはのど自慢を引っ張ってきて利用したらどうか。
- A：5周年にNHKと話をした経緯があるが最低1,200人のキャパシティが必要だ。市内では会場がない。マリパークで屋外でという話もあったが、天候の心配もあって踏み切れなかった。「会場がOKならば」という話だが、10周年のことを今確約することはできない。
- Q：フィジカルな部分の健康面は特定健診や健康相談などで、よく知らせてくれている。メンタル部分の健康は言われていない。「禅」で頭を休めることを勧める。市では増加する自殺を防止する対策をどのようにしているか。
- A：うつ病はいる。管理職には「息抜きも大切だ」と配慮するよう伝えている。他市に比べれば自殺者は少ないと聞いている。自殺者は男性が多いという。
- Q：30あるうちの道路標識には御前崎の「崎」が20ほど、「埼」が10ほどあるが、一般には「崎」である。統一すべきではないか。
- A：灯台は固有名詞として「埼」、その他は「崎」としている。
- Q：マリパークの砂を毎年海岸へ運んで砂が取られて、また同じところへ運んでまた取られてを繰り返している。土木事務所がやっているのかも知れないが市としてもなぜ丘へあげて砂が取られない工夫をしないのか。
- A：無駄だと感じる。「貴重な砂」である。県へ話をして市がある程度負担してでも丘へあげる対策を講じていきたい。
- Q：市長のリーダーシップのもと業務棚卸表を活用しながら仕事をしていると聞いた。経費削減の良い提案があれば教えてほしい。期待している。
- A：県がはじめた業務棚卸表。職員への研修を行なっている。無駄をなくし、市民サービス向上の成果を上げていくために取り入れる。ネーミングは業務作戦書として今から実施するもの。成果は今後上がってくる。
- Q：中段坂の工事が完成して樹木が伐採されたため、吹き上げる強風があたって危険だ。対策としてフェンスを高くしてくれるということだが、いつやってくれるのか。
- A：早々に対策をとる。いつごろできるかは事業部から連絡する。